

## 第1 日時

令和5年(2023年)12月22日(金曜日) 午後2時00分から午後3時00分まで

## 第2 場所

彦根市役所5階 会議室5-1, 5-2

## 第3 出席者等

### 1 委員

井嶋 タイス委員、NGUYEN QUANG VU委員、周 晶委員、  
ミヤモト レナト トヨキ委員、劉 百全委員

### 2 事務局

人権政策課 村田課長、佐伯多文化共生係長、奥村主任通訳

### 3 傍聴者・報道関係者

なし

## 第4 内容

### 《説明》

ごみの捨て方(ごみ分別・埋立ごみ・粗大ごみ)や違反ごみへの対応にかかる注意事項を学んだ。

### 《質問》

- ・アルミホイルが金属ではなく埋立ごみになるのはなぜか
- ・容器包装プラスチックはどの程度汚ければ燃えるごみになるのか
- ・硬いプラスチック(歯ブラシ)はプラスチックなのになぜ埋めるのか
- ・プラスチックと金属の混合品は埋立ごみになるのか
- ・ガラスは埋立だがどのように捨てたらいいのか

### 《意見交換》

【テーマ】それぞれの国でのごみの捨て方は違いについて

○中国では最近分別がある。ダンボールなどは売ることができるが、中国ではお金を払って処理してもらう必要がある。日本には無料の収集業者もいるが、ごみの処分はどうしているのか。また、アパートのごみ箱設置のルールはどうなっているのか。料理店などのごみ収集はどうなっているのか。

◎売れるものは売って、売れないものはお金を払って処理している。直接市の収入になっているのはペットボトルのみ。小型家電は処理業者に委託して処分。無料回収業者のほとんどが違法業者、許可を受けてないため、お金になるものは取って、残ったものを不法投棄する危険がある。無料の回収業者は使わないようお願いしている。アパートなど一定の人数が集まるところに取りに行くが、市はごみ箱を増やさない方針なので、収集を断るケースもある。事業系のごみは燃やすごみは有料だが清掃センターで燃やすことができる。業者に依頼して収集することもできる。

○日本も経済成長終わりに分別が厳しくなったはずだが、中国での分別が厳しくなっている。有害ごみ、資源ごみ、可燃ごみ、生ごみ、乾燥ごみなど分類がある。中国では燃える・燃えないは関係ない。分別への反発もある。日本の分別が一番厳しい。

○ブラジルでは4%だけリサイクル、あとは埋立や街の横に蓄積するなどしている。故郷は180万人の街で10年前から分別が始まった。燃えるごみが生ごみ、プラスチックは別の日に回収している。びんはわからない。ペットボトルはプラスチックと一緒に。ごみ収集車による収集方法も変わって、前はアパートの前まで収集に来ていたが、今は日本の集積所のようなコンテナで回収している。ブラジルでは、粗大ごみが道中に置かれていて、欲しい人がいたら持って帰ることができる。

○ベトナムは発展途上なので日本の30年前と同じ、燃やすか埋める。都市部は分別しているが、燃やす、リサイクル、埋立の3種類。燃やすごみは袋に入れる、リサイクルは缶・びんなど一緒に入れる。法令は去年施行されたが、あまり守られてない。

●自治会から外国人のごみ分別の間違いいに対する問い合わせが多い。言語の違いもあるが、分別が多すぎてわからないのが問題だと考えている。マイナスイメージにつながりかねないので、どうしたらごみのことを理解できるか、次回以降進めていきたい。